

子どもの「アレ」が育つ遊び研究会

幼保小の保育士・教諭が子どもの夢中な姿を報告します。

横浜市こども青少年局では、「よこはま☆保育・教育宣言」における保育・教育環境の創造と子どもの主体的な遊びを実現し、これからの時代に求められる探究心などの力を育成する保育者や教員、職場を応援するプロジェクトとして、「探究心を育む『遊び』研究会」を実施しています。

「幼保小の架け橋プログラム」の取組も踏まえ、今年度の成果報告を、研究員の幼稚園、認定こども園、保育園、小学校、特別支援学校の保育士・教諭が行います。なお、表彰・セレモニーでは、第一生命保険株式会社横浜総合支社長と、こども青少年局長が研究の成果に対する表彰を行います。

「遊び」ってすごい！1年間の研究成果を発表します。

実施概要

【日時】令和6年2月3日(土)

【場所】市庁舎アトリウム(横浜市庁舎1F)

【内容】

第1部 報告会 12:05~13:35

・39施設の研究者による成果報告
(9のブースに分かれた発表)

第2部 表彰・セレモニー 14:00~15:00

・研究の成果に対する表彰
・講師による講評

※第1部、2部ともに、どなたでも自由にご参観いただけます。

※9:45~ 研究員の相互発表として、報告会プレビューを行います。

昨年度の報告会の様子



探究する子どもたち
(昨年度の発表から)



探究心を發揮し、夢中になって遊ぶ子どもたちの笑顔と成長を、ショート動画で紹介します。

取材していただける場合は、2月2日17時まで、下記お問合せ先までご連絡をお願いします。

お問合せ先

こども青少年局保育・教育支援課幼保小連携担当課長 田村 憲一 Tel 045-671-3708

「探究心を育む『遊び』研究会」報告会の開催にあたって

～自発的な遊びの中で育まれた「探究心」や「やり抜く力」をこれからの学びにつなげるために～

1 事業趣旨

「探究心を育む『遊び』研究会」は、「よこはま☆保育・教育宣言」※₁における保育・教育環境の創造と子どもの主体的な遊びを実現し、これからの時代に求められる探究心などの力を育成する保育者や教員、職場（チーム）を応援するプロジェクトとして、横浜市こども青少年局が立ち上げました。「幼保小の架け橋プログラム」(文部科学省)※₂で推進されている、「保護者や地域住民等と、遊びを通した学びの教育的意義や効果の共通認識を図る機会」にもあたります。

報告会では、研究員の実践と成果を表彰し、共有することで取組を波及・拡大させ、横浜市内の保育・教育の実践の質向上につなげます。

2 保育・教育の実践の質向上 応援プロジェクトの目的

- (1) 「よこはま☆保育・教育宣言」における保育・教育環境の創造と子どもの主体的な遊びを実現する
「探究心を育む『遊び』研究会」の実践研究・開発により、あらためて「よこはま☆保育・教育宣言」の内容を理解し、大切にしたい考え方や方向性の共有とともに、《宣言2》「子どもの育ちと学びを支える主体的な遊びを大切にします」の具現化を一層進めます。
- (2) これからの時代に求められる資質・能力の基礎を育む
子ども主体の遊びの過程では、言葉のやりとりや思考力、探究心の芽生え、社会情緒的スキル等といった様々な力が培われ、その力が小学校入学後にも発揮されるといわれています。「遊び」に関する研究を通して、生きる力の育成を図ります。
- (3) 取組の共有による全市的な波及・質の高い実践の拡大を図る
取組の成果を全市的に発信し、「遊び」の重要性についての認識を社会に広めるとともに、効果の波及・質の高い実践の拡大を図ることにより、横浜市の保育・教育の実践の質向上につなげます。
- (4) 行政と民間が連携し、新たな事業機会の創出と社会的課題解決に取り組む
横浜市と第一生命保険株式会社が包括的連携に関する協定を締結したことに基づき、将来にわたり安心して子どもを産み育てられる環境づくりや、健やかな育ちを守る取組の推進に寄与します。

3 実施方法

- (1) 参加 39 施設それぞれが研究テーマを設定し、実践研究を行いました。
(幼稚園・認定こども園・保育園・・・32 施設 小学校・特別支援学校・・・7 施設)
- (2) 年間4回の研修会を設け、大学教授等による講演等を通して研究員に対する助言を行いました。
- (3) 研究成果物（動画等）を活用した取組の報告会を行います。
- (4) 研究員が取り組んだ実践と成果について事前に審査を行い、表彰します。連携協定先である「第一生命保険株式会社」の協賛を受けて副賞を設けています。

※1 「よこはま☆保育・教育宣言～乳幼児の心もちを大切に～」(R2) 横浜市こども青少年局が、1,000 を超える多様な保育・教育施設がある横浜で、保育の質の向上に向け、全ての保育者が、何を大切にして乳幼児期の子どもたちと日々関わるかの基本になるものとして策定したものです。

※2 「幼保小の架け橋プログラム」(R3) 文部科学省が、子供に関わる大人が立場を越えて連携し、架け橋期（義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間）にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で全ての子供に学びや生活の基盤を育むことを目指すとしたプログラム。